

ブックスタート経験が保護者及び児童に与える影響

— 中学3年生時追跡調査（最終） —

Effects of Bookstart on Guardians and Children :
A Follow-up Survey of Third-year Junior High School Students.

原崎 聖子*
Seiko Harasaki

篠原 しのぶ**
Shinobu Shinohara

彌永 和美***
Kazumi Iyonaga

渡邊 晴美*
Harumi Watanabe

要 旨

〔目的〕本研究は15年前に受けたブックスタートの影響が現存するか否かを調査するものである。

〔方法〕調査は質問紙法で、調査対象者は福岡県小郡市在住の中学3年生児とその保護者であり、ブックスタートを受けた保護者とその子ども749組、ブックスタートを受けていない保護者とその子ども290組である。

〔結果〕調査結果は、受けた群が受けていない群よりも有意に高得点を示していた。その内容は保護者に関して1. 過去の記憶については「絵本の読み聞かせ期間が長かった」「読み聞かせの頻度が多かった」2. 本と一緒に見るという子育てについては「子どもの感性が育つ」「子どもとの絆が深まる」など12項目、3. 子どもに本を読み聞かせることの効果については「絵本を子育てに役立てた」「保護者自身が絵本に興味を持つようになった」など15項目、4. 本に関わる日常生活については「父親が子どもと本を見ている」「本の紹介記事に気をつける」など8項目であった。また、子どもに関しては受けた群の方が「本を沢山読んでもらった」「本を読んでもらうことは好きだった」という値が高かった。しかし、現在の生活や学業面に有意差は見られなかった。

〔考察〕15年前にブックスタートを受けたことは現在の読み聞かせの記憶や、子育て観、家族の状況などに肯定的な結果を示した。このことは、ブックスタートが子育てを支持したことの影響であると考えられると共に、その影響は次世代へと引き継がれる可能性も示唆した。

キーワード：ブックスタート、子育て、日常生活、追跡調査、青年期初期

Abstract

〔Purpose〕 The research sought to investigate whether the initial impact of the Bookstart program is still evident in the participants after fifteen years.

〔Method〕 The approach was to conduct a self-completion survey. The subjects of the survey were 729 children and their guardians who had been part of the Bookstart program, and 290 children and their guardians who had not, all from Fukuoka Prefecture in Japan. The subjects were asked about the duration and frequency of their reading habits, and about the strength of the bonds developed between the children and their guardians.

〔Findings〕 Analysis of the survey data indicates that those families who had participated in the Bookstart program continue to be engaged in longer and more frequent periods of reading, with participants feeling deeper familial bonds, than those who had not.

〔Conclusion〕 This analysis seems to show that the Bookstart program continues to have a significant positive impact on family relationships in those families who participated.

Key Words : Bookstart, Parenting, Everyday life, Follow-up survey, Early adolescence

*福岡女学院看護大学 **福岡女学院大学 ***国際医療福祉大学

I. 緒言

1992年に英国バーミンガム市で始められたブックスタート運動は、2000年の「子ども読書年」をきっかけとして日本に紹介され18年の歳月が流れた。この活動は「share books with your baby」「抱っこのぬくもりの中でもらう幸せをすべての赤ちゃんのもとへ」をテーマに掲げ、絵本の読み聞かせを通して大人と赤ちゃんが幸せな時を過ごすことができるようにと、0歳児健診で赤ちゃん一人一人の保護者に読み聞かせの実演と絵本を提供するものである(NPOブックスタート(編), 2010)。

現在、日本でブックスタート事業を展開している自治体は、1032市区町村にも及んでいる(Bookstart Japan, 2018, 9/30)。このようにブックスタート事業が広がりを見せた背景には家族構造や労働形態の変化による乳幼児期の子育て支援の必要性が考えられる。

また、支援には保育所等のように家庭外で他者の手により養育を支援するものと、家庭の中での子育てをどのように展開するのかを伝え支えるものとが考えられるが、ブックスタート事業は主に後者であり、食事や排泄など日常生活の基本的な部分から少し離れて「ゆとり」の時間を楽しむ方法を示しているものであると考える。このように親が子育てにゆとりを持つことは、子どもの情緒の安定に繋がり、子どもの安定した状態は家庭・家族の雰囲気にも影響を及ぼすものではないかと考えられる。

そこで、福岡県小郡市は、2003年9月の10ヶ月健診時にブックスタートを開始すると同時にブックスタートを受けたことが、その後の保護者の読み聞かせへの意識、子育て観、日常生活、家族の状況、及び子どもの本に関する意識、日常生活等にどのような影響を及ぼすのかを探るべく、乳児期から児童期、青年期初期に渡るまでの長期に渡る質問紙調査計画を立て開始した。

そしてこれまでに生後10ヶ月、18ヶ月、37ヶ月、就学前は保護者に、小学3年、小学6年では保護者と児童に質問紙調査を行った。その経過を述べると、10ヶ月時調査では、読み聞かせをすると答

えた親は「プレゼントに本をもらいたい」「家にある本を見るようになった」など本に対する意識が高いこと、「子育てによって自分が成長している」と感じていることなどが示された(原崎ら, 2005)。18ヶ月時調査では日常生活の中で全体として「本屋で絵本を買う」「親自身が自分で絵本を読む」など絵本に対する関心が高くなっていた。また、育児では、この時期の子どもの甘えの高さと親のストレスとの正相関が高いことを見出し、読み聞かせによる愛着形成が子育てに対するストレス軽減の一助となる事を示唆した(原崎ら, 2006)。37ヶ月時調査では、ブックスタートの説明を受けた親は、日常生活の中で「父子と一緒に本を見ている」など父親との関係性が高くなっていた(原崎ら, 2007)。就学前時調査ではブックスタートの説明を受けたことで、「兄弟姉妹と一緒に本を見ている」など兄弟姉妹の関係性や「保護者が絵本を見るために本屋へ行く」「保護者が図書館で子どもの本を借りる」など保護者が本を求めて外出することが多くなっていた(原崎ら, 2010)。このように、乳幼児期では、ブックスタートを受けたことにより親の絵本に対する意識が高くなっていることや家庭の中での父親や兄弟姉妹との繋がりが強い方向に向かっている様子を伺うことができた。

また、児童期以降は親だけでなく、子どもに対しても絵本の読み聞かせの記憶、日常生活、好きな科目などを問う質問紙調査を実施した。その結果、小学3年時調査では親がブックスタートを受けた子どもは、「自分で本を読むのが好き」「おうちの手伝いをするのが好き」など本や家庭の意識が好ましい方向にあった(原崎ら, 2012)。また、親の回答では「ブックスタート等で友達ができた」「子育ての悩みを「健康課」等に相談するようになった」などブックスタートの説明を受けたことの有効性を感じており、日常生活の中でも「保護者が図書館の催しに出掛ける」「生涯学習センターや公民館の情報に気を付ける」など公共の施設や情報への関心が高くなっていた(原崎ら, 2013)。

小学6年時調査では2014年、2015年に6年生になった児童の親の回答によりブックスタートを受

けたか受けていないかの2群に分け検討した。その結果、子どもに関する項目の有意差は認められなかったが、ブックスタートを受けた親は「絵本を子育てに役立てた」「保護者が絵本好きになった」「父親が育児に参加するようになった」など読み聞かせの効果をポジティブに捉えていた。また、本を一緒に見るという「子育て」で一番大事な事に「子どもとの絆が深まる」という項目の得点が高く、親と子の絆を大切にすブックスタートのテーマがこの時期まで保持されていると思われた（原崎ら、2016）。

以上のように、乳幼児期、児童期の調査においてブックスタートを受けたことが様々な形で保護者やその子どもに影響を与えていることを見出してきた。

2017年、2018年の2カ年は、本計画の最終学年である中学3年の生徒とその保護者を対象に調査を進め、ブックスタートを受けたことが15年経過後の保護者と青年期初期に至った子どもにどのような影響があるのかについて言及する。

II. 方法

1. 調査対象 調査時に福岡県小郡市在住の中学3年生及びその保護者 1039組

2. 調査方法 質問紙調査法

3. 調査期間 2017年6月及び2018年の6月に各学校に調査を依頼し、調査終了後、同年7月に各学校にて回収した。調査期間は各年、それぞれ約1ヶ月である。

4. 調査手続 小郡市との話し合いにより調査は回答者数を増し結果の有効性を上げる目的から2カ年に渡り収集を行った。

配布及び回収は福岡県小郡市主導で実施され、各学校宛に学校長、担任宛の依頼文並びに保護者への調査依頼文と質問紙が郵送された。質問紙への回答は、生徒は各クラスで担任主導のもと実施され、保護者は生徒が渡された調査依頼文と質問紙を持ち帰り行われた。調査依頼文には、小郡市教育委員会名で、調査の主旨と同時に、個人を特定するものではなく統計的に処理すること、個人

の資料が外部に公表されることはないことを記載している。また、質問などの問い合わせ連絡先は学校とは直接関係ない、小郡市立図書館となっている。保護者が記入した後、生徒は期日までに学校へ持参し提出した。提出をもって質問紙への同意とみなして回収された。回収された質問紙は個人が特定できないように小郡市図書館にてナンバーを付加されたものを筆者に郵送し、Excel変換し、さらにSPSS用データに変換した。質問紙及び各データは研究代表者が鍵のかかる保管場所に保管している。

5. 質問内容 質問紙は無記名自己記入式で、2011年度より使用している独自作成用紙と同様である。

1) 保護者への質問項目

保護者自身の幼児期の絵本との関わりの深さを調査するために「保護者と本との関わり」について3問、ブックスタートの説明を受けた後に実際にどのように読み聞かせを実施したか調査するために「ブックスタート及び読み聞かせ体験」として4問、ブックスタートを受けたか受けていないかによって子育て観や読み聞かせに対する意識の違いを調査するために「本を一緒に見る『子育て』についての考え」12項目、「読み聞かせはどのような効果があったか」について17項目、乳児期にブックスタートを受けたことで現在の生活に差異を及ぼすかどうかを調査するために「現在の子育て意識について」11項、「現在の家族の状況について」17項目、「現在の子どもの様子について」10項目を調査した。

2) 子どもへの質問項目

親がブックスタートを受けたか否かで、子どもに何らかの差異が見られるかどうかを調べるために以下の項目について調査した。読み聞かせの記憶に違いが見られるのかを調査するために「読み聞かせの記憶について」3問、日常の余暇時間に使用するメディア媒体の嗜好の違いを見るために「読書・マンガ・ゲームの嗜好」6問、本との距離感の指標として図書館への接近を調査するために「図書館の利用頻度等」4問、「好きな教科目」1問、家族との関わり方を訪ねた「家庭での様子」

3問等全22問である。

また、単位時間内に想起できることば数の違いがあるか否かを見るために「知っている花」「知っている虫」の記入を各々3分間実施した。

6. 評定尺度 各問にはそれぞれ選択肢を設けて該当する数字を○で囲んで頂いた。また、項目として設定した問は連続評定となっており、それぞれ5段階評定で、5：「非常にそう思う（そうである）」～1：「まったくそう思わない（そうではない）」となっている。尚、生徒に対しては3分間「知っている花・虫の名前数」を想起してもらい正答数を数えて個数とした。

7. 分析方法 SPSS Statistics 23使用。

グループ間の平均値を比較するために「独立したサンプルのt検定」により有意確率、度数、平均値、標準偏差を算出した。また、グループ間の回答比率の偏りを比較するためにカイ二乗検定として「記述統計量；クロス集計表」により有意確率、度数、パーセントを算出した。尚、有意水準は5%で検定を行った。また、検定に際し無回答等の各欠損値については人数から除外した。

文中、ブックスタートを受けた群と受けていない群の分割については、保護者質問紙、質問番号3-問1「ブックスタートをどこの自治体で受けられましたか」の問いに対して、回答1. 小郡市や、2. その他の自治体で受けたと回答した者をブックスタート「受けた」保護者として、3. 受けていないと答えた者をブックスタート「受けていない」保護者として分析した。また、生徒に関しても保護者の解答をもとにして同様に「受けた」群

と「受けていない」群に分けた。

8. 倫理的配慮 本研究は福岡女学院看護大学研究理委員会の承認を得たものである。

研究倫理審査結果通知番号 第17-5号

Ⅲ. 結果及び考察

1. 調査対象者概要

調査対象者は福岡県小郡市内5つの中学校の3年生（子ども）及び保護者で、子どもの質問紙回収数 1192、前述の保護者質問番号3-問1による有効回答数 1039、回答率（87.2%）、保護者の質問紙回収数 1191、質問紙番号3-問1による有効回答数 1039、回答率（87.2%）であった。ブックスタートを受けた状況は、小郡市で受けた 575名、その他の自治体で受けた 174名の合計749名、受けていない 290名、となっている。

2. 保護者に対する調査結果

1) 保護者と本との関わり

保護者の幼い頃の絵本体験や現在の読書嗜好についてカイ二乗検定を行ったところ2グループ間有意差は見られなかった（表1, 表2）。また、表3. 現在の「図書館利用頻度」においては受けていない群において利用しないという回答が多かった（ $p < .001$ ）。

2) 子どもへの読み聞かせ経験について

子どもへの読み聞かせの経験についてカイ二乗検定を行ったところ「いつごろまで読み聞かせをしたか」については表4. に示すように両群を比

表 1 幼いころに絵本を読んでもらったか（親）

		よく	ときどき	あまり	ない	覚えていない	合計
ブックスタート	受けた	110 14.7%	218 29.2%	182 24.4%	81 10.8%	156 20.9%	747 100.0%
	受けていない	34 11.8%	90 31.1%	58 20.1%	37 12.8%	70 24.2%	289 100.0%
合計		144 13.9%	308 29.7%	240 23.2%	118 11.4%	226 21.8%	1036 100.0%

$\chi^2=5.00, df=4, p>.10$ n.s.

表 2 読書が好きか（親）

		非常に	まあまあ	あまり	好きではない	合計
ブックスタート	受けた	121 16.2%	418 56.0%	178 23.8%	30 4.0%	747 100.0%
	受けていない	50 17.3%	156 54.0%	68 23.5%	15 5.2%	289 100.0%
合計		171 16.5%	574 55.4%	246 23.7%	45 4.3%	1036 100.0%

$\chi^2=0.970, df=3, p>.10$ n.s.

表 3 図書館の利用（親）

		よく	ときどき	あまり	しない	合計
ブックスタート	受けた	42 5.6%	227 30.3%	301 40.2%	178 23.8%	748 100.0%
	受けていない	27 9.3%	64 22.1%	100 34.6%	98 33.9%	289 100.0%
合計		69 6.7%	291 28.1%	401 38.7%	276 26.6%	1037 100.0%

$\chi^2=19.07, df=3, p<.001$

表 4 いろいろまで読み聞かせをしたか

	1歳頃	2歳頃	3歳頃	4歳頃	5歳頃	小学入学	小学3年	小学6年	現在も	していない	合計	
ブックスタート	受けた	9 1.2%	34 4.6%	95 12.8%	51 6.9%	111 14.9%	304 40.9%	101 13.6%	16 2.2%	2 0.3%	21 2.8%	744 100.0%
	受けていない	6 2.1%	12 4.2%	44 15.4%	20 7.0%	46 16.1%	99 34.6%	33 11.5%	5 1.7%	0 0.0%	21 7.3%	286 100.0%
合計	15 1.5%	46 4.5%	139 13.5%	71 6.9%	157 15.2%	403 39.1%	134 13.0%	21 2.0%	2 0.2%	42 4.1%	1030 100.0%	

$\chi^2=16.42, df=9, p<.10$

表 5 読み聞かせはどの程度くらいしたか

	毎日	週3-4	週1	たまに	ほとんどしなかった	覚えていない	合計	
ブックスタート	受けた	122 16.4%	319 43.0%	106 14.3%	150 20.2%	21 2.8%	24 3.2%	742 100.0%
	受けていない	43 15.0%	92 32.1%	47 16.4%	62 21.6%	20 7.0%	23 8.0%	287 100.0%
合計	165 16.0%	411 39.9%	153 14.9%	212 20.6%	41 4.0%	47 4.6%	1029 100.0%	

$\chi^2=26.51, df=5, p<.001$

表 6 本を一緒に見る子育てで一番大事だと思うこと

	子どもが本好きになる	言葉の発達が早い	子どもとの絆が深まる	保護者がゆったりする	子どもの感性が育つ	子どもの知性が育つ	子どもがおちつく	子への愛情が深まる	子どもが保護者を好きになる	思い出になる	保護者が読書を楽しむ	話しを聞ける子になる	合計	
ブックスタート	受けた	122 17.8%	21 3.1%	165 24.1%	14 2.0%	156 22.8%	13 1.9%	18 2.6%	34 5.0%	10 1.5%	50 7.3%	2 .3%	80 11.7%	685 100.0%
	受けていない	45 17.0%	14 5.3%	53 20.0%	4 1.5%	66 24.9%	5 1.9%	6 2.3%	13 4.9%	2 .8%	18 6.8%	0 0.0%	39 14.7%	265 100.0%
合計	167 17.6%	35 3.7%	218 22.9%	18 1.9%	222 23.4%	18 1.9%	24 2.5%	47 4.9%	12 1.3%	68 7.2%	2 .2%	119 12.5%	950 100.0%	

$\chi^2=7.77, df=11, p>.10, n.s.$

較すると、受けた群の読み聞かせ期間は、小学校、現在までの割合が多く、長い期間にわたって読み聞かせを続けている様子が伺える（ $p < .10$ ）。また、受けていない群では、読み聞かせをしていない割合が多かった。「読み聞かせ頻度」については表5. に示すとおり、受けた群が週3-4回43.0%など読み聞かせ頻度高の割合が高く、受けなかった群は受けた群に比べて「ほとんどしなかった」「覚えていない」の割合が高くなっていった（ $p < .001$ ）。

3) 本を一緒に見る「子育て」について

「本を一緒に見る子育てで一番大事だと思うことは何か」という問いに対してカイ二乗検定を行ったところ、表6. に示すように両群に有意差はなく、両群とも「子どもの感性が育つ」「子どもとの絆が深まる」という回答が20%を超えていた。

しかしながら、表6の各選択項目を「本を見る『子育て』としてどのように考えるか」の平均値を両群で t 検定比較したところ、表7. に示すように、12項目全てに有意差がみられ、いずれもブックスタートを受けた群の平均値が高かった（ $p < .001$ ）。このことは、ブックスタートを受けた保護者の方が、子育てに絵本を利用する事は子どもの心身の発達や情緒の安定、保護者と子ども

との関係づくりに意味があると捉えていることが示されていると考える。

4) 読み聞かせの効果について

子育てに際して読み聞かせを行うことは、実際にどのような効果があったと考えるかについて、 t 検定を行ったところ表8. に示すように15項目で有意差がみられ、いずれもブックスタートを受けた群が高かった（ $p < .05$ ）。このことはブックスタートを受けた群は、絵本を読み聞かせることにより、より保護者が絵本に興味を持つようになった、絵本を購入する・プレゼントするなど日常の中に絵本と関わる場面が増した、父親と一緒に絵本を見たり育児に参加するようになった、子どもとの関係が良くなったなど、家庭内での様々な効果を認めていることを示している。また、一方ではブックスタートを通して保護者に友達ができたなど家庭外の効果も示されていた。

5) 保護者の日常生活について

現在の保護者の日常生活について「現在の子育て」「家族の状況」「子どもの様子」について両群による t 検定を行ったところ、まず「現在の子育て」については表9. に示すように、両群の有意差は認められず、両群とも子育てによるストレス項目よりも、子ども保護者双方の成長を感じる項

表 7 本と一緒に見る「子育て」についてどのように考えるか

項目	ブックスタート	n	平均値	標準偏差	t 値	P
子どもが本好きになる	受けた	709	3.894	0.903	3.137	.002
	受けていない	277	3.690	0.966		**
子どもの言葉の発達が早くなる	受けた	708	3.788	0.850	3.476	.001
	受けていない	277	3.570	0.967		**
こどもとのきずなが深まる	受けた	706	3.834	0.838	3.728	.000
	受けていない	277	3.603	0.964		***
保護者がゆったりとした気分になれる	受けた	709	3.463	0.885	3.902	.000
	受けていない	275	3.207	1.009		***
子どもの感性が育つ	受けた	709	4.025	0.753	4.031	.000
	受けていない	276	3.797	0.904		***
子どもの知性が育つ	受けた	709	3.965	0.792	3.571	.000
	受けていない	277	3.755	0.923		***
子どもが落ち着く	受けた	708	3.768	0.839	4.530	.000
	受けていない	277	3.487	0.962		***
保護者の子どもへの愛情が深まる	受けた	706	3.564	0.875	3.754	.000
	受けていない	277	3.321	0.997		***
子どもが保護者を好きになる	受けた	705	3.549	0.902	3.960	.000
	受けていない	275	3.287	0.997		***
絵本や本と一緒に見ることがいつまでも思い出になる	受けた	708	3.804	0.915	4.352	.000
	受けていない	275	3.509	1.044		***
保護者が読書を楽しむ	受けた	708	3.451	0.933	3.814	.000
	受けていない	277	3.191	1.023		***
人の話が聞ける子どもになる	受けた	708	3.751	0.838	3.028	.003
	受けていない	277	3.563	0.971		**

t検定 ***p<.001, **p<.01

表 8 読み聞かせはどのような効果があったと考えるか

項目	ブックスタート	n	平均値	標準偏差	t 値	P
絵本を子育てに役立てた	受けた	748	3.333	0.976	3.315	.001
	受けていない	285	3.105	1.012		**
家の本を読んで聞かせるようになった	受けた	741	3.447	0.869	3.575	.000
	受けていない	283	3.223	0.966		***
保護者が絵本や本を購入するようになった	受けた	742	3.373	1.037	1.669	.095
	受けていない	286	3.252	1.069		+
図書館に子どもを連れて行くようになった	受けた	746	3.083	1.161	3.559	.000
	受けていない	285	2.789	1.244		***
父親も絵本や本を子どもと一緒に見るようになった	受けた	740	2.519	1.160	3.464	.001
	受けていない	281	2.242	1.088		**
保護者が絵本に興味をもつようになった	受けた	748	3.321	1.012	3.871	.000
	受けていない	286	3.042	1.098		***
プレゼントに絵本や本をとおくようになった	受けた	747	3.151	1.037	2.872	.004
	受けていない	286	2.941	1.102		**
保護者がお話しなど催しに興味をもつようになった	受けた	747	2.629	1.014	3.474	.001
	受けていない	285	2.382	1.037		**
子育ての悩みを「学校」「教育センター」等で相談するようになった	受けた	745	1.917	0.843	2.026	.043
	受けていない	286	1.797	0.863		*
保護者が図書館で子どもの本を借りるようになった	受けた	747	2.914	1.228	2.708	.007
	受けていない	283	2.678	1.299		**
父親が育児に参加するようになった	受けた	743	2.499	1.064	2.898	.004
	受けていない	280	2.282	1.082		**
子どもが他者に絵本を読んで聞かせることがある	受けた	747	2.673	1.109	3.153	.002
	受けていない	283	2.431	1.078		**
保護者が絵本や本を好きになった	受けた	743	3.171	1.039	4.005	.000
	受けていない	286	2.874	1.129		***
子どもとの関係が良くなった	受けた	745	3.196	0.915	4.191	.000
	受けていない	286	2.923	0.988		***
ブックスタートやおはなし会等を通して保護者に友達ができた	受けた	744	1.985	0.883	4.168	.000
	受けていない	274	1.726	0.870		***
出来事や思ったことを子どもが言葉で説明しようとするようになった	受けた	746	2.926	0.923	3.274	.001
	受けていない	282	2.709	1.013		**

t検定 ***p<.001, **p<.01, *p<.05, +p<.10

目の平均が高くなっていった。また、「子どもの寝顔をみてかわいいと思う」が4.5点以上を示しており青年期に掛かる中学3年児においても乳幼児期と変わらず子どもの寝顔を愛しいという保護者の様子を表していた。

また、本に関わる「日常の生活」については表9. に示すとおり「父親が子どもと本を見ている」

「本の紹介記事に気をつける」「兄弟姉妹と一緒に本を見ている」「保護者が本屋で本を買う」「保育に関する通信販売、通信教育を利用する」「保護者が本を見るために本屋へ行く」「保護者が本をプレゼントする」「保護者が読書する」などの項目に有意差が見られ (p < .05)、いずれもブックスタートを受けた群の平均値が高く、日常生活の

中でブックスタートを受けた群の方が本との関わり方が強かった。

「子どもの様子」については表9. に示すとおり「小さい子の面倒を見る」「天気の良い日は戸外で遊ぶ」「友だちを家に連れてくる」有意差が

見られ ($p < .05$)、いずれもブックスタートを受けた群が高かった。しかし「手伝いをよくしてくれる」はブックスタートを受けていない群が10%水準で高い傾向を示した。

表9 ブックスタートを受けたか否かによる平均値比較 (保護者)

	ブックスタート	n	平均値	標準偏差	t	p
現在の子育てとの関係						
子どもをうまく育てている	受けた	746	2.916	0.822	-0.268	.789 n. s.
	受けていない	290	2.931	0.870		
子どもの寝顔をみてかわいいと思う	受けた	748	4.564	0.663	0.778	.436 n. s.
	受けていない	290	4.528	0.721		
子育てでどうしたらよいか分からなくなる	受けた	748	2.956	0.983	-0.937	.349 n. s.
	受けていない	289	3.021	1.044		
子どもは結構一人で育っていく	受けた	748	2.906	0.909	0.793	.428 n. s.
	受けていない	290	2.855	0.995		
自分一人で子育てをしている圧迫感を感じる	受けた	748	2.100	0.899	-1.462	.144 n. s.
	受けていない	289	2.194	0.985		
子育てによって自分が成長している	受けた	746	3.920	0.931	1.630	.103 n. s.
	受けていない	290	3.814	0.956		
子どもをそだてるために我慢している	受けた	749	2.219	0.739	-1.073	.284 n. s.
	受けていない	290	2.276	0.836		
子どもがいることで生活にゆとりを感じる	受けた	746	3.241	0.993	-0.712	.477 n. s.
	受けていない	289	3.291	1.020		
子育てで毎日くたくたになる	受けた	747	2.285	0.829	0.752	.452 n. s.
	受けていない	290	2.241	0.871		
子どもに感情的に接してしまう	受けた	746	2.883	0.871	0.695	.488 n. s.
	受けていない	290	2.841	0.882		
毎日はりつめた緊張感がある	受けた	749	1.834	0.804	0.751	.453 n. s.
	受けていない	290	1.793	0.775		
本に関わる日常生活						
父親が子どもと本を見ている	受けた	702	2.150	1.090	3.773	.000 ***
	受けていない	268	1.862	0.983		
兄弟姉妹と一緒に本を見ている	受けた	694	2.762	1.113	2.327	.020 *
	受けていない	263	2.574	1.126		
保護者が本屋で本を買う	受けた	703	3.346	1.070	2.398	.017 *
	受けていない	276	3.159	1.152		
知育に関する通信販売や通信教育を利用する	受けた	706	2.416	1.114	2.208	.027 *
	受けていない	275	2.244	1.065		
図書館に子どもを連れていく	受けた	706	2.690	1.157	1.816	.070 +
	受けていない	276	2.540	1.179		
保護者が図書館で子どもの本を借りる	受けた	707	2.639	1.240	1.720	.086 +
	受けていない	276	2.489	1.204		
インターネットで絵本を買う	受けた	705	2.294	1.230	0.647	.518 n. s.
	受けていない	274	2.237	1.213		
保護者が絵本を見るために本屋へ行く	受けた	705	3.485	1.083	2.366	.018 *
	受けていない	275	3.298	1.180		
保護者が本をプレゼントする	受けた	704	3.080	1.144	2.596	.010 *
	受けていない	275	2.865	1.199		
保護者が図書館の催しに出掛ける	受けた	706	1.826	0.930	0.005	.996 n. s.
	受けていない	275	1.825	0.981		
公民館の図書コーナーに子どもを連れて行く	受けた	705	1.899	0.991	-0.288	.773 n. s.
	受けていない	275	1.920	1.057		
本の使い方についての本を読む	受けた	707	1.700	0.833	-0.210	.834 n. s.
	受けていない	275	1.713	0.868		
生涯学習センターや公民館の情報に気を付ける	受けた	707	2.156	1.034	1.217	.224 n. s.
	受けていない	276	2.065	1.077		
本の紹介記事に気を付ける	受けた	705	2.709	1.106	3.570	.000 ***
	受けていない	274	2.423	1.172		
保護者が読書をする	受けた	706	3.109	1.150	2.352	.019 *
	受けていない	276	2.913	1.233		
読んだ本について話し合う	受けた	707	2.632	1.063	1.115	.265 n. s.
	受けていない	276	2.547	1.106		
保護者が子ども向けのテレビやビデオを見せる	受けた	707	2.771	1.054	1.640	.101 n. s.
	受けていない	275	2.647	1.075		

子どもの様子	ブックスタート	n	平均値	標準偏差	t	p
学校での出来事をよく話す	受けた	709	3.537	1.055	0.304	.761
	受けていない	278	3.514	1.097		n. s.
親子でよく会話する	受けた	709	3.790	0.929	-1.525	.128
	受けていない	278	3.892	0.992		n. s.
手伝いをよくしてくれる	受けた	709	2.913	1.049	-1.847	.065
	受けていない	277	3.051	1.069		+
家族で外出する事を好む	受けた	708	3.234	1.029	1.232	.218
	受けていない	278	3.144	1.062		n. s.
親の行動に興味を持っている	受けた	707	3.123	0.930	0.429	.668
	受けていない	278	3.094	1.071		n. s.
弟妹や小さい子どもの面倒を良く見てくれる	受けた	703	3.266	1.097	1.974	.049
	受けていない	273	3.110	1.139		*
天気の良い日は戸外でよく遊ぶ	受けた	705	3.162	1.110	2.366	.018
	受けていない	278	2.975	1.129		*
友達をよく家に連れてくる	受けた	708	2.668	1.027	2.315	.021
	受けていない	278	2.496	1.101		*
いろいろな本をよく読んでいる	受けた	708	3.068	1.126	1.925	.054
	受けていない	278	2.914	1.143		+
よく勉強している	受けた	708	2.855	1.073	0.167	.867
	受けていない	278	2.842	1.106		n. s.

表 10 読み聞かせの記憶及び現在の生活（子ども）

項目	ブックスタート	n	N=749(受けた), N=290(受けていない)				p
			よく	ときどき	あまり	ない	
幼児期に本を読んでもらったか	受けた	748	366 48.9%	207 27.7%	162 21.7%	13 1.7%	<.01
	受けていない	290	109 37.6%	86 29.7%	85 29.3%	10 3.4%	
幼児期に本を読んでもらうのが好きだったか	受けた	735	351 47.8%	255 34.7%	95 12.9%	34 4.6%	<.05
	受けていない	285	107 37.5%	112 39.3%	44 15.4%	22 7.7%	
その日の出来事や友だちのことを親に話すか	受けた	739	289 39.1%	263 35.6%	126 17.1%	61 8.3%	<.05
	受けていない	286	117 40.9%	84 29.4%	68 23.8%	17 5.9%	

各設問についてχ²検定

3. 子どもに対する調査結果

1) 読み聞かせの記憶について

「幼児期に本を読んでもらったか」「幼児期に本を読んでもらうのが好きだったか」という問について表10. に示すようにカイ二乗検定を行ったところ、「幼児期に本を読んでもらったか」については、ブックスタートを受けた群で「よくあった」と答えた割合が10ポイント以上高かった（ $p < 0.01$ ）。また、「幼児期に本を読んでもらうのが好きだったか」の質問でも、ブックスタートを受けた群の「好きだった」という割合が10ポイント程度高くなっていた（ $p < 0.05$ ）。

ブックスタートを受けた親の読み聞かせ行動は、中学生の記憶の中に良い影響として留まっているといえよう。

2) その他の項目について

「本を読むのが好きか」等「読書・マンガ・ゲー

ムの嗜好」、「学校の図書館で本を借りるか」「地域の図書館で本を借りるか」等「図書館の利用頻度」、「好きな教科目」では有意差は見られなかった。また、「家庭での様子」は表10. に示すとおり「その日の出来事や友達の事を親に話すか」という問ではブックスタートを受けた群は「ときどき話す」、受けていない群は「あまり話さない」の割合が多くなっていた（ $p < 0.05$ ）。「知っている花」「知っている虫」の単位時間内想起数にも有意差は認められなかった。

IV. 考察

乳児期に受けたブックスタートの影響が15年経過後の青年期初期の中学3年生や保護者に存在しているかということを探ってみた。それによるとブックスタートを受けた保護者は受けていない保

護者に比べて絵本の読み聞かせ期間が長く、読み聞かせの頻度も多かった。また、ブックスタートを受けた保護者は親子で本と一緒に読むことは親子の絆を強め、子どもの感性を育てるなど様々な良い面が期待できると感じていた。さらに、読み聞かせの効果としては保護者が本に興味を持ち本に関わる機会が増える、父親子どもと本を見ているなど、家庭の状態や家族の状況にも好ましい方向にあることからブックスタートを受けたことで保護者の意識や生活に良い影響があったと考えることができた。

また、子どもの比較では10ヶ月時に親がブックスタートを受けた子どもは、中学3年生時でも、幼児期に本を沢山読んでもらった、本を読んでもらうことは好きだったなどの記憶が残っていた。しかし、現在の生活や学業面には影響はなかった。

V. 結語

ブックスタートは乳幼児期の子育て支援を第一義的な目標としているが、その親子で1つの絵本を読む経験は親子共に記憶として残り、乳幼児期の子育てのみならず、児童期を経て青年期初期の家庭の雰囲気にも影響することが示唆された。ブックスタート事業をきっかけとして、赤ちゃんと一緒に絵本を読み聞かせながらゆったりとした時を過ごすことが、家族の中に絆を形成し、その記憶がまた、次の世代の子育てや親子関係、家族関係の形成に良い方向で寄与できることを願うものである。

謝辞：本研究では、2017年度・2018年度小郡市ブックスタート事業、中学3年生徒及び保護者の質問紙調査データを使用させていただきました。小郡市長をはじめとして各学校関係者および質問紙作成、配布、回収を頂きました小郡市ブックスタート事業関連の皆様にお礼申し上げます。

VI. 参考文献

原崎聖子, 篠原しのぶ. (2005). 母親の乳幼児養育に関する調査—ブックスタート事業との関わ

りから—. 福岡女学院大学紀要人間関係学部, 6, 59-68

原崎聖子, 篠原しのぶ. (2006). 母親の乳幼児養育に関する調査—ブックスタート事業18ヶ月児を中心に—. 福岡女学院大学紀要人間関係学部, 7, 23-28

原崎聖子, 篠原しのぶ, 安永可奈子. (2007). 母親の乳幼児養育に関する調査—ブックスタート事業36ヶ月児を中心に—. 福岡女学院大学紀要人間関係学部, 8, 73-82

原崎聖子, 篠原しのぶ, 彌永和美. (2010). 就学前児の家庭における読み聞かせ環境の調査—ブックスタート事業との関係—. 福岡女学院大学紀要人間関係学部, 11, 53-60

原崎聖子, 篠原しのぶ, 彌永和美, 渡邊晴美. (2013). ブックスタート追跡調査からみる保護者の意識と学童期への影響について—小学校3年生を対象として—. 福岡女学院大学紀要人間関係学部, 14, 15-25

原崎聖子, 篠原しのぶ, 彌永和美, 渡邊晴美. (2016). ブックスタート経験が保護者及び児童に与える影響—小学6年生時追跡調査—. 福岡女学院大学紀要人間関係学部, 17, 61-68

NPOブックスタート (編). (2010). 「赤ちゃん」と絵本をひらいたら—ブックスタートはじまりの10年—. 岩波書店

NPOブックスタート (編). (2014). 「ブックスタートがもたらすもの」に関する研究レポート. NPOブックスタート

NPOブックスタート Bookstart Japan. 2018-09-30. <http://www.bookstart.or.jp/>